

ERE information

Vol. 11 2007年2月28日発行

発行 / 特定非営利活動法人 日本経済学教育協会・事務局 発行責任者 / 松崎 英樹
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町3番21号 / 電話(03)3267-4819 / e-mail:info@ere.or.jp

Contents

- ▶中央大学経済学部が受験を推奨!
 - ▶明治大学リバティ・アカデミーにおいて『経済学基礎講座(ERE受験対策講座)』を開講
 - ▶第11回ERE(経済学検定試験)試験結果
 - ▶中央大学経済学部の取組例
 - ▶EREの活用を考える / 平田純一・立命館大学経済学部教授
 - ▶受験者の声
 - ▶事務局からのご連絡
-
-

▶中央大学経済学部が受験を推奨!

中央大学経済学部では、所属教員、中大経済学会が連携し、受験を希望する学部内の学生に経済学検定試験(ERE、EREMикро・マクロ)の受験を推奨しました。

これは、経済学検定試験が授業やゼミで培った経済学の実力を試す機会として有益なものであり、かつ効果的な学習に寄与できるという判断によるもので、受験料は学部で負担し、事務室が募集の取りまとめを行いました。この結果、1回目の団体申込で192名の志願者があり、学部生の意欲の高さが示されました。

また、「給付奨学金」(自己推薦)にERE、EREMикро・マクロのスコア提出(A⁺以上)が出願資格基準の1つとして採用されました(関連記事5頁)。

▶明治大学リバティ・アカデミーにおいて 『経済学基礎講座(ERE受験対策講座)』を開講

明治大学リバティ・アカデミーでは、『経済学基礎講座(ERE受験対策講座)』を2007年6月より全12回開講いたします。ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎知識から受験のための傾向・対策までを、ビジネス界で活躍の講師がわかりやすく指導します。

問合せ先 明治大学リバティ・アカデミー事務局

電話 03-3296-4423 ファックス 03-3296-4542

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学駿河台校舎アカデミーコモン11階

▶第11回 E R E（経済学検定試験）試験結果

2006年12月3日（日）に実施いたしました、第11回 E R E / E R E ミクロ・マクロの成績結果等がまとまりましたので、発表いたします。今回の成績概要は次表のとおりですが、全体の平均につきましては、「E R E」が466.2点（前年同期比 11.6点）、「E R E ミクロ・マクロ」が161.8点（前年同期比 42.8点）とやや低めに推移しています。なお、前回との比較については、下記資料を参照ください。

《資料1-1》科目別成績

『E R E』

科目	ミクロ経済学	マクロ経済学	財政学	金融論	国際経済	統計学	時事経済
配点	250点	250点	100点	100点	100点	100点	100点
平均点	94.7点	108.2点	55.9点	47.2点	56.1点	41.4点	62.8点
（前回）	102.5点	113.5点	48.5点	33.4点	50.8点	36.7点	44.3点
標準偏差	42.26点	43.80点	21.06点	18.05点	21.57点	18.98点	20.11点
（前回）	47.04点	47.59点	17.57点	17.60点	19.18点	16.34点	18.08点

《資料1-2》

『E R E ミクロ・マクロ』

科目	ミクロ経済学	マクロ経済学
配点	250点	250点
平均点	74.7点	87.1点
（前回）	94.4点	101.8点
標準偏差	28.30点	33.50点
（前回）	38.01点	39.98点

《資料2》成績概要

	E R E	E R E ミクロ・マクロ
応募者数	251名	1,334名
受験者数	155名	1,076名
平均点	466.2点	161.8点
標準偏差	136.08点	51.21点
最高得点	850点	430点
最低得点	120点	30点

《資料3》団体別応募状況

E R E / E R E ミクロ・マクロ			
①中央大学	192名	⑰広島経済大学	23名
②大阪府立大学	162名	⑱大阪商業大学	22名
③明海大学	85名	⑲京都大学	21名
④明治学院大学	66名	⑲明治大学	21名
④久留米大学	66名	⑳成蹊大学	18名
⑥高崎経済大学	42名	㉑和歌山大学	18名
⑥創価大学	42名	㉒関東学院大学	16名
⑧立命館大学	40名	㉒福島大学	15名
⑨長崎県立大学	38名	㉓筑波大学	14名
⑩九州産業大学	37名	㉔一橋大学	12名
⑪法政大学	33名	㉔埼玉大学	12名
⑫弘前大学	31名	㉔青山学院大学	12名
⑬新潟大学	30名	㉔福岡カレッジ・オブ・ビジネス	12名
⑭宇都宮大学	29名	㉓熊本壺溪塾学園	11名
⑮慶應義塾大学	24名	㉓広島修道大学	11名
⑮早稲田大学	24名		

《資料4》ERE上位成績者

順位	大学・勤務先名	所 属	氏名(敬称略)	ランク
1	熊本壺溪塾学園	公務員専攻科・大学受験科	矢 住 勝 大	S
2	早稲田大学	政治経済学部	是 枝 俊 悟	S
3			筒 井 大	S
4	立命館大学	経済学部	高 島 啓 太	S
5	和歌山大学	経済学部	佃 直 樹	A+
5	大阪商業大学	経済学部	谷 雅 史	A+
7	香川大学	経済学部	石 原 徹	A+
8	中央大学	経済学部	大 越 諭	A+
8	新潟大学	経済学部	渡 辺 一 博	A+
10			清 水 邦 敏	A
11	一橋大学大学院	経済学研究科	坂 下 誠	A
11	一宮社会保険事務所		横 井 宏 英	A
11	福岡大学大学院	経済学研究科	松 田 翔	A
14	慶應義塾大学大学院	商学研究科	鈴 木 将 之	A
14	一橋大学	経済学部	三 上 裕 介	A
16	東京大学大学院	公共政策学教育部	(非 公 開)	A
17	一橋大学大学院	経済学研究科	永 峯 暢 之	A
17	武蔵大学	経済学部	田 中 健 太	A
17	慶應義塾大学	経済学部	新 井 崇 徳	A
17	広島大学	経済学部	齋 藤 貴 之	A
21	法政大学	経済学部	中 村 隆 人	A
21	第三銀行	経済研究所	西 村 和 浩	A
21	立命館大学	経済学部	浦 上 大 輔	A
21	京都大学	経済学部	金 原 大 植	A
21	熊本壺溪塾学園	公務員専攻科	吉 村 県	A
26	農林高校	定時制	山 本 勇	A

《資料5》EREMикро・マクロ上位成績者

順位	大学・勤務先名	所 属	氏名(敬称略)	ランク
1	筑波大学	第一学群社会学類	室 岡 健 志	S
2	高崎経済大学	経済学部	木 村 大 地	S
2	東京大学	農学部	桐 生 朋 文	S
2	大阪大学	経済学部	大 瀧 逸 朗	S
5			鈴 木 正 人	S
5	早稲田大学	政治経済学部	森 本 晃 司	S
7	慶應義塾大学	経済学部	岡 地 迪 尚	S
7	大阪市立大学	商学部	井 元 青 良	S

順位	大学・勤務先名	所 属	氏名(敬称略)	ランク
9	東京都立大学	経済学部	柿 島 順 一	S
9	新潟大学	経済学部	近 藤 泰 弘	S
9	立命館大学	経済学部	米 田 仁	S
12	北海道大学	農学部	松 井 朋	A+
12	学習院大学	経済学部	門 井 秀 孝	A+
12	明海大学	経済学部	吉 田 雄 人	A+
12	東京大学	農学部	今 井 裕 明	A+
12	埼玉大学	経済学部	大 谷 昌 弘	A+
17	早稲田大学	政治経済学部	十 川 明 徳	A+
17			佐々木 康 裕	A+
19	東京都立大学	経済学部	吉 田 素 規	A+
19	東京大学	農学部	植 田 貴 博	A+
19	新潟大学	経済学部	本 多 裕 樹	A+
19			浅 井 康 仁	A+
23	一橋大学	経済学部	加 藤 寛 樹	A+
23	みずほ情報総研	銀行システムソリューション部	長谷川 裕	A+
23	筑波大学	第三学群社会学類	川 瀬 翔 平	A+
23	新潟大学	経済学部	橋 本 尚 美	A+
23	立命館大学	理工学研究科	山 村 力 也	A+
23	大阪府立大学	経済学部	(非 公 開)	A+
23	大阪府立大学	経済学部	岡 正 典	A+
23	東京アカデミー 大分校	上級行政	三 浦 誉 裕	A+
23	九州大学	経済学部	長谷川 陽 平	A+

▶ 「政治経済攻究会」(早稲田大学) 4連覇 ~ 第6回大学対抗戦

14大学1専修学校の19チーム135名が参加し、上位4名までの総合得点で優勝を競った第6回大学対抗戦は、1,320点を獲得した「政治経済攻究会」(早稲田大学)が4連覇を遂げました。「政治経済攻究会」のみなさんは、第3・4回の対抗戦において優勝したことに對して、大学より『早稲田学生文化賞』(学生個人または学生の団体が行う課外活動で、特に優れた成績をあげたものに対して贈られる賞)の授与を受けています。

準優勝は1,300点を獲得した「BKCエクテン」(立命館大学)で、優勝チームとの差はわずか20点でした。第3位は1,270点を獲得した「筑波経済研究会」(筑波大学)でした。大学対抗戦の個人部門では、室岡健志さん(筑波大学)が430点でトップの成績を収めています。

なお、大学対抗戦の個人賞受賞者は、協賛団体から副賞が授与されます。

順位	チーム名	ミクロ平均点	マクロ平均点	総合得点	平均点
優 勝	政治経済攻究会(早稲田大学)	150.0点	180.0点	1,320点	330.0点
準優勝	BKCエクテン(立命館大学)	160.0点	165.0点	1,300点	325.0点
3 位	筑波経済研究会(筑波大学)	150.0点	167.5点	1,270点	317.5点

▶中央大学経済学部を取組例

資格試験に対する学部の取組

経済学部では、かねてからTOEIC受験を希望する学生に対して、受験料の全額学部負担を実施しています。EREの受験料を負担決定するまでの経緯には、中大経済学会の後押しがありました。「全体的な底上げが必要であるという共通認識」のもと、先生方と中大経済学会がスクラムを組み、「EREを有効に活用できないだろうか」と方策・活用の道を探っていた結果、学部としての具体的な取組が始まりました。第11回の取りまとめにあたっては、大勢の先生方・事務室の協力を得て推奨・PRをいただき、多数の応募者数を輩出するに至りました。

「A+以上」が2006年度から自己推薦給付奨学金の一要件に

経済学部では、2006年度より自己推薦給付奨学金の一要件として『ERE/EREミクロ・マクロ』においてA+以上のランクを取得した者」を認定しました。

自己推薦給付奨学金では、これまでに日本国際連合学生連盟、自転車単独日本一周旅行、インドネシア学生民主化運動のドキュメンタリー番組作成（SKY Perfect TVで放送）、NHKハングル講座出演、音楽活動を行っている学生、TOEICの高得点者、公認会計士第二次試験合格者等に対して奨学金が給付されています。

時代を先取りした教育改革“FLP（Faculty-Linkage Program）”

中央大学では数年前から“FLP＝授業改革”に取り組んでいます。文部科学省が定めたことにより、最近になって各大学で活発な取組を見せるようになってきた、いわゆる“FD”（ファカルティ・ディベロップメント：大学教員の職業的な資質向上のための活動。教員が授業内容・方法を改善し、向上させるために行う組織的な取組）にあたる改革です。

まず、基礎学力をしっかりとつける教育を行う。そして、それを応用・発展する学力をつける教育を行う。さらに、社会に通用しうる有為な人材育成のための授業を行うための改革に先んじて着手し、実行しています。

変わる大学

中央大学では、2007年度より入学する学生に対し、新しいカリキュラムを適用します。「学科の特色を出す。4年間で学ぶ内容に特徴を出すこと」を目的としており、専門分野に応じた特色ある様々なカリキュラムを展開していきます。

また、創立100周年を迎えた経済学部では、新たな発展に向けた改革の7番目に『経済学検定試験』への取組を掲げています。専門化を進めるばかりでなく、基礎学力を測る・底上げをしていくという意味で、EREを有用な位置付けに捉えていただいております。学部内では、「受験者数の拡大と得点の向上」を今後の目標のひとつに掲げています。

EREの活用を考える

平田純一・立命館大学経済学部教授

現在のERE受験者

ERE試験も開始から5年が経過し、経済系学部を持つ大学や経済学会においては、これに対する認識が定着してきた。一方で、日本で経済学教育を受けている大学生数や大学で経済学を学習しこの知識を利用して仕事をしている人の人数に比べるとEREの受験者は非常に限定された数になっている。

これまでもERE試験結果は、大学院入試における筆記試験の代替的な試験として明示的に利用されている。これと併せて、公務員試験等資格試験受験者が実力を確認するための参考として受験していると考えられる。結局現在までのところERE試験を受験している人は、何らかの意味で経済学をきちっと学習したことを証明する意欲と必要性を持った人に限定されているといえよう。

ERE活用の一案

現在大学生の学力低下が大きな問題になっており、企業における大学生採用に際しても、SPI試験等の基礎学力試験の成績を重視することが定着している。SPI試験は国語と数学(若干の理科)の基礎学力を判定する試験であり、大学における専門分野に関わらず、基礎学力と資質を判断するための素材となることは確かである。これに加えて、経済系学部出身者が大学時代にきちっと学習したことを証明するための手段として、ERE試験の成績を提示することを普及させることが必要であろう。こうした状況を生み出せば、学生諸君の学習意欲の向上に資することになる。さらにこうした統一的な努力目標を設定することが可能な経済学部出身者の他学部出身者に比べて就職活動において優位になると主張することも可能となり、教育を受け持つ各大学経済学部の受験者確保においてもこの点を主張することができる。

実際問題として、経済学部の教育は、基礎理論の教育を通して論理的思考能力を訓練し、数量分析の技術面の教育も各大学で共通に実施されており、現実の社会システムの制度面に関しても幅広い教育が施されており、企業に就職した場合必要とされる基礎学力と社会常識をバランス良く教育する中身となっている。しかしながら、各大学における履修体系はかなり弾力的になっており、各大学の成績評価だけで、経済系学部出身者における個別の学習状況を確認することは困難である。一方、ERE試験は、経済学部における教育の骨格部分をバランス良くチェックしており、この試験で良好な成績を残すことは、経済系学部において体系的に学習したことを証明することが可能な内容となっている。

活用が容易なEREに

現在ERE試験が上記の方向で活用されている例は少ないが、こうした方向での活用を考える上では、ERE試験自身にも若干の工夫が必要であるかもしれない。現在のERE試験は、EREと基礎理論部分を取り出したEREミクロ・マクロが実施されているが、幅広い分野を対象とし、より基礎的な能力を判定するためにEREジュニア的な試験を検討し、大学院進学や公務員受験を目指す以外の学生も気軽に受験し、実力判定を行うことができるチャンスを増すことによって、上記のERE試験の活用がより容易になるのではなかろうか。こうした試験を加えれば、各大学の卒業資格試験としての活用も可能になるのではないだろうか。

▶受験生の声

大阪商業大学 経済学部 4回生

谷 雅史さん ERE 第5位 ランクA+

過去の受験回数：『EREミクロ・マクロ』 2回

受験の動機 私の大学卒業後の目標は、公務員になることです。公務員試験の模試は本試験直前の約3ヵ月前に行われており、1年近くの試験勉強を続けていくなかで、それまで経済学の実力を試す機会がないと考えておりました。しかし、大学の先生から7月と12月に行われている経済学検定を薦められて、経済学検定を公務員試験の勉強の1つとして取り入れることに決めました。経済学検定で定期的に自分の経済学の実力を試すことや、つねに高い勉強意欲を維持することができるのが、私の受験の動機です。

感想 公務員試験と似たような計算問題については完璧に解くことができましたが、それ以外の問題については新しく学ぶことが多く、経済学の知識を増やすことができる絶好の機会であったと思います。受験を繰り返すことで判定結果が良くなることは、「経済学ができる」という自信につながり、経済学が得意科目の1つになりました。また、公務員受験対策の受講生の有志とともに大学対抗戦に参加したことで、お互いに切磋琢磨し、わからないところを教え合うことができる学友にめぐり合う機会にもなりました。第9回のEREミクロ・マクロで全国10位、第11回のEREで全国5位にランキングされ、成績優秀者として発表していただいたことは、大変光栄に思います。

学習方法 公務員受験対策向けのミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な講義を受講して、入門レベルの経済学をマスターし、今までに経済学検定で出された問題をすべて解くことです。これに限ります。

試験に対する意見・要望 いままでどおりで構いません。経済学を学んでいる皆さんに、経済学検定試験の魅力や活用方法を広報し、経済学検定の受験者が増えることを願っております。

試験結果の活用 履歴書や公務員試験の願書等の資格取得を記載できる欄に、経済学検定の判定結果を書きました。また、公務員試験の面接の時に、学生時代に一番頑張ったことの一つとして、「経済学検定」を取り上げて、経済学検定の判定結果や大学対抗戦での個人賞受賞について自信を持って言うことができました。おかげさまで、国家公務員 種試験の最終合格を果たしました。

大学対抗戦 優勝 政治経済研究会（早稲田大学）

あと1人平均1問間違えれば負けるという接戦でしたが、なんとか4連覇を達成することができました。大学対抗戦も回を重ねるごとに300点以上を取れる人が増えてきて、ますます盛り上がってきました。そろそろ我々を超えるチームがでてほしいですね。それに（優勝賞品の）週刊ダイヤモンドは面白いですよ。ダイヤモンドの「Data Focus」は「時事経済」対策にもってこいです。大学対抗戦には関係ないですけどね。次回もレベルの高い戦いができることを楽しみにしています。

（早稲田大学政治経済学部 是枝俊悟）

大学対抗戦 3位 筑波経済研究会（筑波大学）

個人では優勝できましたが、大学対抗戦では前回（第3回大学対抗戦）は準優勝、今回は第3位という結果に終わってしまったため非常に悔しいです。僕は今回で大学を卒業してしまうため、対抗戦優勝という目標は後輩達に託したいと思います。

（筑波大学第一学群社会学類 室岡健志）

▶事務局からのご連絡

第7回大学対抗戦参加チーム募集

第7回 大学対抗戦
第12回 ERE / ERE ミクロ・マクロ 2007年7月1日(日)において実施
受付期間:2007年4月16日(月)~2007年5月18日(金) 消印有効
詳細: <http://www.ere.or.jp/taikousen/taikousen.pdf>

《協賛団体》

- ・ダイヤモンド社
- ・日本評論社
- ・日本経済新聞社
- ・NPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会
- ・NPO法人金融知力普及協会

第12回 ERE (経済学検定試験) 実施要綱

『ERE』実施要綱

実施回	第12回
試験日	2007年7月1日(日)
試験時間	午後1時00分~午後4時00分(180分)
受付期間	2007年4月16日(月)~2007年5月18日(金) 消印有効
受験料	5,250円(税込)
出題科目	ミクロ経済学/マクロ経済学/財政学/金融論/国際経済/統計学/時事経済
出題形式	4択一式/100問,1問10点,1,000点満点
持込品	受験票,筆記用具(HBの鉛筆,プラスチック製消ゴム),電卓(ただし,金融計算電卓,関数・メモ機能付は不可),顔写真付身分証明証(学生証・運転免許証・パスポート等)

『ERE ミクロ・マクロ』実施要綱

実施回	第12回
試験日	2007年7月1日(日)
試験時間	午後1時00分~午後2時30分(90分)
受付期間	2007年4月16日(月)~2007年5月18日(金) 消印有効
出題科目	ミクロ経済学/マクロ経済学(注)
受験料	3,150円(税込)
出題形式	4択一式/50問,1問10点,500点満点
持込品	受験票,筆記用具(HBの鉛筆,プラスチック製消ゴム),電卓(ただし,金融計算電卓,関数・メモ機能付は不可),顔写真付身分証明証(学生証・運転免許証・パスポート等)

(注) 『ERE』のミクロ経済学・マクロ経済学と同一問題です。